

災害保健医療コーディネーション実習を実施しました (2020/7/24)

テーマ：災害時保健医療福祉のコーディネート、COVID-19 対策

場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2020年7月24日（金・祝）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所において文部科学省補助金事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害保健医療コーディネーション実習が実施され、プログラム履修生20名（医療従事者、消防職員など）が研修を受講しました。

この研修会は、NPO 法人災害医療 ACT 研究所が全国で実施する、災害医療コーディネーター育成のための実践的な研修です。東日本大震災時に宮城県沿岸部の被災地医療を中心的に支えた石巻赤十字病院に集結した全国の災害医療第一人者が講師として参加し、当時実際に起きたことを題材として、グループ演習形式で問題解決にあたる実践的な研修会です。「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が会場責任者として運営にあたりました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症蔓延を鑑み、受講定員を大幅に削減して研修を実施しました。履修生の間隔を広くとる、常時窓全開での換気、演習で近接を避けがたいもしくは共用物を使用する際はフェイスシールド、ゴム手袋着用、頻回の手指消毒の実施など、感染対策に万全の注意を払いつつ研修を実施しました。

コロナ禍といえども九州での7月豪雨のように災害は発生し、災害医療支援チームは被災地に派遣されます。今までの避難所対応のみならず、分散避難への対応や感染防止措置を取ったうえでの行動など、リアルタイムなテーマについて講師、参加者らは熱心に討論を行いました。



ACT 研究所 森野一真理事長



東北大学病院 石井正教授



研修スペースを広く使って



演習時にはフェイスシールド、ゴム手袋を着用



集められた模擬避難所情報を統合



休憩時間毎にマイク、ポインターをアルコール清拭